

令和6年3月下水道革新的技術実証事業評価委員会

「都市域における局所的集中豪雨に対する雨水管理技術実証研究
(メタウォーター・新日本コンサルタント・古野電気・江守商事・日水コン・神戸大学・福井市・富山市共同研究体)」
フォローアップ審査 総括

○本技術について、下記の観点からフォローアップ審査を実施した。

- ・都市域レーダ施設の詳細調査結果を踏まえたガイドラインの見直しの必要性等に関する確認。

○詳細調査結果報告結果について次のとおり総括する。

- ・ 詳細調査を通じて、次の知見が得られた。
 - ①一部において劣化は見られたものの、施設の性能や強度に影響するほどの劣化は確認されなかった。
 - ②空中線装置について、これまでの劣化の進行状況を踏まえた検討をした結果、送受信部の推定耐用年数は11年、ロータリージョイント部の推定交換期間は6年となった。また、アンテナ回転用ギア部の推定交換期間は6年と試算された。
 - ③空中線装置架台の各部材の板厚については、運用前の板厚を「設計値」と仮定し、「設計値の規格公差下限の厚さ」になるまでの到達年数を試算したところ、いずれも11年以上という結果となった。
- ・ 自主研究の成果及び本詳細調査結果で得られた知見については、ガイドラインの改定につながるものではないものの、今後国総研において、ガイドラインの参考情報として整理・公表する。